

令和3年度 県立下館第一高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校</p> <p>【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>5年前より継続して、新学習指導要領と大学入試改革に対応するため、主体的・対話的で深い学びの実現を図ってきた。研修会の実施、外部研修会への派遣、相互授業参観等により、授業改善を進めてきた。県立高校ではいち早くすべての教室に電子黒板を導入設置し、ICT機器を活用した授業を展開している。その結果、授業中積極的に発言・発表する生徒が増加している。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善では、学力向上につなげる指導法の研究を引き続き進める必要がある。「わかる授業」を展開し、土曜特別講座、夏季特別講座、平常課外、AC活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって、自立した学習者の育成を図ってきた。その結果、進路指導における国公立大学への合格者数は93名でほぼ目標を達成できた。</p> <p>「令和2年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」事業では、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げた「紫西グローバルチャレンジ」事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修を実施した結果、英会話に積極的な生徒が増加し、GTECのスコアも向上して</p>	<p>確かな学力の定着と進路指導の充実</p>	<p>①グローバル人財の育成を目指し、「令和3年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校として、「館一グローバルチャレンジー地域で輝くグローバル人財を目指すー」事業を推進する。海外修学旅行、台湾・オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会、附属中学校の授業参観、中高一貫校先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、自立した学習者の育成を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大学合格100名以上、難関国公立大学合格20名以上、難関私大合格20名以上を目指す。</p>	<p>A</p>
<p>「令和2年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」事業では、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げた「紫西グローバルチャレンジ」事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修を実施した結果、英会話に積極的な生徒が増加し、GTECのスコアも向上して</p>	<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数をゼロにする。</p> <p>⑧基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者100名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者ゼロを目指す。</p>	<p>A</p>

<p>きた。</p> <p>今年度は「令和3年度県立学校等チャレンジ・プロジェクト」強化校の指定を受け、「館一グローバルチャレンジ 一地域で輝くグローバル人財を目指す」としてこれまでの事業を発展させる。国際社会や地域社会の課題を発見し、科学的視点から分析力・論理力・表現力を駆使し、主体的・創造的・協働的に課題解決に挑戦する資質や能力を育成することが目標である。担当校務分掌組織として、企画改め「組織マネジメント推進部」が担う。</p> <p>附属中学校の開校2年目に伴い、全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。</p>	<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>⑩積極的に清掃活動に係わる雰囲気づくりを推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。</p> <p>⑪キャリア・パスポートを活用し、特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、コミュニケーション能力を育て、自己肯定感を高めていく。</p> <p>⑫部活動は、学業との両立を図り、質の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。(1年生の部活動加入率 90%以上を目指す。)</p> <p>⑬学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。</p>	<p>B</p>	
<p>附属中学校の開校2年目に伴い、全職員の共通理解のもと、中高一貫教育校のメリットを最大限生かすカリキュラムの策定を、高校と附属中学校が協働して進めていく。</p>	<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「社会に開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>⑮附属中学校とともに学校説明会の充実を努め、広い地域の中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。</p> <p>⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。</p> <p>⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。</p>	<p>A</p>	
<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>⑱道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。</p>	<p>A</p>	
<p>中高一貫教育校としての高校教育改革</p>	<p>中高一貫教育校としての高校教育改革</p>	<p>⑲附属中学校と高校が有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。</p>	<p>B</p>	
<p>働き方改革の実現</p>	<p>働き方改革の実現</p>	<p>⑳業務の見直しを進め、削減できる事業を各校務部及び学年で協議し、学校全体として1つ以上の事業を削減する。</p>	<p>A</p>	
<p>三つの方針</p>	<p>具体的目標</p>	<p>評価</p>	<p>次年度(学期)への主な課題</p>	
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>①答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする人財 ②豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる人財 ③未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた人財</p>	<p>B</p>	<p>・将来にわたりチャレンジする気概を持った人財の育成を図るため、高校卒業時における成長指標を策定する。</p>
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>①自立した学習者の育成を目指した課題解決重視型の授業展開による、難関大学への進路実現 ②人権教育や道徳教育を積極的に推進し心の教育の充実を図り、豊かな人間性を基礎にした</p>	<p>A</p>	<p>・総合的な探究の時間をより充実させるため、外部機関との連携を計画的に進める。</p>

		進路希望実現 ③探究活動を中心に、学校外部資源との連携や姉妹校との国際交流・語学研修を積極的に進め、グローバル人財としての素養を元にした進路希望実現				
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	①基礎・基本を重視した日々の学習を継続的に進め、確かな学力を身に付け、発展的な学習へと意欲的に学習する生徒 ②挨拶を励行し、規律ある生活習慣を心がける自律に努める生徒 ③部活動や探究活動をととして、多様な他者との協働に積極的に取り組む生徒	B		・学校説明会やホームページでの広報を通じて、求める人財の明確化を図る。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。家庭学習を通し、課題に自主的に取り組ませる。③④	B	B	・1・2年生において、読書環境を整えるための、朝のHR前の読書時間の確保が十分にされていたと思う。さらなる定着、充実を図っていききたい。
			定期テストや模擬試験の事後処理として、間違ったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせ、理解の定着を図る。③④	A		
		進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。また、iPadを活用し、理解の共有を深める。②	B		
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。③④	B		
			読書環境を整える。朝のHR前の読書時間を学年全体の指導として確保したり、教材に合わせた図書紹介を行ったりするよう努める。また、読書感想文コンクールへの応募を促す。③⑥	A		
	地歴・公民	わかりやすい授業、興味関心を喚起する授業を行うと共に、新課程に対応した教科指導に努める。	新聞、映像、副教材等を有効に活用し、わかりやすさを心がける。また、生徒の進路希望及び新課程に対応した授業を実践する。②③	A		
			授業担当者がお互いに授業を見学し、研究協議などを行う。②	B		
			各種研究会に参加し、授業内容へのフィードバック・教科内における情報共有に努める。②	B		
			生徒の能動的な授業への参加を取り入れた学習法を工夫する。②③	A		
		論述問題にも対応する内容を盛り込む。	時事内容を盛り込み、学習内容を身近なものになるように努める。②③	A		
	小論文や論述問題にも対応できるように努める。③④	B				
授業開始と終了の際のメリハリをつける。	生徒の授業準備などが速やかに行われるように指導する。生徒の理解度に合わせた授業を展開する。⑧	A				
数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑩	A			
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④	A			
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。③④	B			
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④	B			
	家庭学習習慣の定着に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。④	B			

	自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。③	A		ついて教科全体で考える。
		学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③	B		
		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にICT機器を活用した授業を研究する。②	A		
理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 理科の実験を増やすため、可能であれば実習助手を確保したい。 効果的なコンピュータ活用型の授業については、各種研修会などを通じて、研鑽を積む。
		教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。②③	C		
		資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	B		
	自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。②③	B		
		単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。②	A		
	進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。③④	A		
		理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。②	B		
	生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。②④	B		
基礎力の身につけていない生徒に対し、個別指導等を実施する。③		B			
保健 体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。②③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続きコロナ禍での体育授業となったが、今年度はオンラインで体育授業を行うことができ、体育科教員全員で協力して実技教科でも実践することができた。生徒の活動量を確保しながら次年度でも実践していきたい。 保健ではミライタッチやiPadを用いて授業を行うことができた。次年度ではさらに活用を広げ、伝達一辺倒にならないよう工夫して実践していきたい。
		最新のデータや資料をもとに、ICT機器を活用してペアワークやグループ学習など、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。①②③	A		
	現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけさせる。②⑧⑱	B		
		保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。②③	B		
	基礎体力の向上を図る。	年度を通じて、授業の始めに各学年とも補強運動や体づくり運動の時間を設ける。②⑧	B		
		ゲームの進め方を工夫し生徒の運動量を確保する。②⑧	B		
	種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい、生涯にわたって運動する習慣を定着させる。	各種目で経験者をグループ内に配置し、高い技術に触れる。②⑥⑪	A		
		バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。⑥⑪⑱	A		
スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。	ゲームにおいて互いに審判を経験することで、ルールを覚え、各競技の楽しさを知る。⑥⑨⑬	B			

芸術	授業研究に取り組み、指導法の工夫・改善を図り、生徒が芸術についての学びを深められるようにする。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導も念頭に置いた、個性を尊重する指導を行う。 ②③⑱	A	B	・芸術系大学を選択する生徒で実技の指導を必要とする生徒がいなかった。 ・次年度は、生徒の進路希望状況を的確に把握し、目標設定をする。
		生徒が主体的に取り組める教材を精選し、グローバル社会で活躍していけるような芸術的素養を身に付けさせる。 ①②③④	A		
	さまざまな表現・鑑賞活動を通し、生涯を通じて芸術を愛好する生徒を育成する。	さまざまな表現活動を実施しながら、コミュニケーション力を高め、仲間と共に協働的に活動できるグループワークを多く取り入れる。 ①②③⑥⑦⑬⑱	A		
		鑑賞活動等を通じ、地域の伝統芸能や芸術を体感し、芸術のよさや楽しさを感じさせることにより、深い学び・対話的学びを実現させる。 ①⑤⑥	B		
	生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	芸術系大学の進路希望者に対して、実技等試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す。 ①③④	C		
		放課後等の時間を設けて、指導を徹底する。 ③④⑫	C		
環境整備に努める。	表現活動に応じた、教室環境の整備に努める。 ⑩	A			
英語	授業時間を大切にす。	チャイム着席を徹底し、授業時間を確保する。 ③	A	A	・授業相互参観の機会を増やしていく。 ・評価基準と評価方法に関する議論と研修の機会を増やす。 ・多読指導のための創意工夫と予算を確保する。
	指導力の向上を図る。	授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。 ②	B		
		生徒がコミュニケーション能力を身につけられるよう、指導法を研究・工夫する。 ②③	A		
	授業や家庭学習に主体的に取り組む意欲を育てる。	音読やリスニングを多く取り入れ、学習内容の定着を図る。 ①②	A		
		英語で発表する場を与え、主体的に授業に取り組めるようにする。 ①②	B		
	生徒の学習状況を把握する。	提出物等も成績に加味し、学習に取り組む態度を向上させる。 ②③	B		
ノート等を提出させ、生徒の家庭学習状況や理解度を把握する。 ③		A			
中高連携を深める。	小テスト等で学習の理解度を把握し、必要なら補習等を実施する。 ②④	A			
家庭	学習意欲を高める授業を展開する	指導法研修や授業公開を通して中高連携を深め、6年間を見通した効果的な指導体制作りを進める。 ②③④⑱	B		
		実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。 ②③	A		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開し、主体的態度を育成する	異文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬	B		
		四観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②③	B		
環境整備に努める	ホームプロジェクト学習（課題解決型学習）・実験・実習の充実を図る。 ⑥⑱	B			
情報	座学を通じて、情報に関する科学的な思考力、判断力を伸ばす。	学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩	B	B	・iPadを含めICTを活用した授業展開ができた一方で、生徒同士での協働ツールとしての活用が思ったようにできなかったため、次年度の課題としたい。
		情報社会の仕組みについて興味を喚起し知識を習得する授業を行う。 ①	B		
	実習を通じて、情報技術を活用する基本的な技能と表現力の向上を図る。	Google for Education等のツールを積極的に活用し、グループワークの際に生徒が合意形成の手法を学ぶ助けとする。 ⑥⑬⑱	B		
		実技実習について内容ごとに提出物を課し、達成度を確認して指導に活かす。 ②③	A		
	P C室の環境の改善や利用法の工夫を行い、より生徒が学びやすい環境を作る。 ②③	B			

		正しい情報リテラシーを身につけさせる。	現代に即した情報モラルの習熟を図り、知識・理解をレポート等により確認する。 ①⑱	B		
教務部	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	授業時間の確保に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。 ①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の共通理解を一層図るため、内規、申し合わせ事項、校内様式などについてしっかり議論し改善や追加することが必要である。 ・新学習指導要領に合わせた観点別評価をスムーズに行えるよう体制を整える。また、各教科の評価規準についても整備を行う。 ・高校と附属中との連携をさらに密にする。 ・台風や降雪などにより授業が実施できなくなった場合、年度途中であっても曜日変更などを行うなど柔軟な対応をとり、年間の授業時間数のバランスをとるよう努める。
			計画的な運用により現行のカセットシステムの利点を最大限に活かし、授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。 ③	A		
			日々の授業変更を管理し、適切な時間割を立案する。授業の開始と終了時刻を厳守し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。また、授業時数のバランスの確保に留意し、特別時間割などの調整を行う。 ③	A		
	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	「チーム学校」の考えのもと、附属中・各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。また、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組み、働き方改革につなげる。 ⑪⑳	B			
	定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、校務支援システムを使用し、円滑な運営に努める。各教科・学年からの要望も取り入れ、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されるように、テストの在り方や内容を十分検討していく。 ③	B			
		観点別学習状況評価について理解を深め、生徒の学習実態を反映するように、評価方法の工夫や在り方を更に研究する。大学入学共通テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。 ②③	B			
	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	学習進路部と連携して、大学情報等のデータ更新などのサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。 ④	B			
	I C T環境を整備し、校務や校外への情報発信の効率化を図る。	公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。また、ホームページ及び館一メールを通じて、行事連絡や非常時の対応を迅速に伝え、近隣中学校や地域からの理解と信頼を得られるように工夫する。I C T活用のノウハウを教員間で共有できるよう、関係校務部と連携する。 ⑭⑳	A			
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努め、教員間の情報格差をなくす。 ㉔	A			
		共有で使用する外部記録媒体の管理をする。 ㉔	B			
成績処理用にクローズされた校内L A Nを併せて整備し、管理する。 ㉔		B				
校内L A Nのセキュリティ管理をする。サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。 ㉔		B				
生活部	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、毎月の生活目標を示したプリントを教室掲示し、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。 ⑤⑥	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立へ向けた取り組み、特に挨拶の励行については徹底して 	

		問題行動の予防や早期対応に努める。いじめなどの実態把握をするため、定期的にアンケートを実施する。 ⑥⑱	A	<p>いきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定していた行事が、中止やオンライン等に変更になり、十分理解してくれたか不明である。コロナによる行事内容変更等も含めて見直ししていきたい。 ・オンライン授業によって、不規則な生活を送っていると思われる生徒が見受けられた。ゲーム等の時間が増え、外出もしなくなって運動不足になっていると思われる。スマホ家庭のルールや、基本的な生活習慣について、もう一度確認させ、意識の高揚を図りたい。
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。 ⑥⑦⑱	A	
服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。		学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。 ⑤⑥⑨	A	
基本的な生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者100名以上を目指す。		欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、生活部、学年と協力体制をとって継続的に指導していく。 ⑧⑩	A	
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。 ⑤⑧	A	
安全で有意義な学校生活の実現に努める。		登校指導や自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。 ⑥⑨	B	
		教室を離れる際は、教室の施錠を徹底する。自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。 ⑨⑩	A	
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。 ⑤⑨⑱	B	
ケータイ・ネットの安全利用の充実に努める。		ケータイ・ネットの安全利用を呼びかける。また、集会時においても危険性を訴えていく。スマホ利用に関する実態調査の結果を基に、睡眠時間・学習時間確保のため、学習進路部と連携し使い方について指導していく。 ⑥⑨	B	
健康教育を推進し、心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て、健康に対する意識の高揚を図る。		新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩	A	
		性に関する講演会・薬物乱用防止教室を、外部講師を招聘し1年次に実施する。 ⑬	A	
健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。		月1回のペースで、生活部職員が校内を巡視し、清掃用具の破損や不足を確認して、清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩	A	
		避難訓練を通して、非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬	B	
		クリーンアップ作戦を通して、地域の美化対策に協力し、また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬	A	
		毎日の清掃活動を指導し、清潔な学習環境整備に努める。 ⑩	A	
		保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧	A	
特別活動部	特別活動を通して、豊かな人間性を養う。	学業との両立を保ちつつ、部活動の活性化を図り、部活動参加率90%以上と県外大会出場を目標に充実した活動を目指す。 ⑫	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動部数を精選した上での活性化を図る。 ・芸術鑑賞の代替案や見直
		芸術鑑賞会において本物の舞台芸術を体験させ、心身の充実に努める。 ⑬	B	

	中学・高校の連携した行事の改善を図る。	附属中学校での特別活動の内容を検証し、中高一貫を含めた充実した活動を目指す。⑬⑱	A		し。 ・中高生徒会の連携。 ・行事運営の中心となる人材の育成。 ・中学と連携した高校でのキャリア・パスポートの活用。
	学校行事を充実させる。	生徒会と執行部が中心となり、生徒の自主的かつ充実した活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成と、より良い人間関係を構築する。⑪	A		
	キャリア教育の一環としての特別活動を位置づける。	キャリア・パスポート(手帳等)を活用し、各行事や部活動などにおいて、生徒一人一人の振り返りを通して、人生について考える機会を設ける。⑪	C		
学習進路部	生徒の学力向上を支援する。	生徒の実態に応じて課題の精選を行い、ホワイトボードを利用し課題の可視化を行う。③④	B	B	・対面形式とオンライン形式それぞれの長を生かした行事の計画・実施。 ・今年度評価Bの項目を改善し、キャリア教育の視点に立った進路指導を実践する。
		定期テスト・外部模試・自学自習時間調査等の結果を管理しデータの有効活用を図る。③④	A		
		全生徒の学力向上を目指し、課外(通常・夏季)・土曜特別講座を計画し、生徒の学習活動を支援する。①③④	A		
		各学年で「学習アドバイス」を発行するとともに、生徒の自学自習力の向上を図る。①③④	B		
		定期考査前指導を組織的に行い、欠点者ゼロを目指す。②③	A		
	教員の授業力及び進路指導力を高める。	校内授業公開、授業アンケートを行うとともに、長期休業中の予備校による教員研修を奨励し、新しい学力観に基づく授業改善に資する。②③④	B		
		進路指導に関する研究会等に積極的に参加し、成果を他の教員に還元する。②③	B		
		卒業学年による進路報告会を開き、3年間を見据えた進路指導を行う。③④	A		
	確かな学力に基づいた進路実現を支援する。	進路相談を実施し、生徒に適切な進路情報を提供するとともに、生徒が進路情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。③⑱⑲	A		
		外部模試を計画的に実施し、その結果及び動向を把握し、生徒の進路選択に資する。③④	A		
		難関国公立大20名以上を含む国公立大100名以上、難関私大(GMARCH以上)20名以上の合格を目指す進路指導体制を整える。①③④	B		
	キャリア教育の充実を図る。	生徒の進路希望を把握し、各学年に適切な進路情報を提供し、進路通信や進路の手引きの発行を通して、生徒や保護者にも進路情報を効果的に発信する。③⑭⑰	B		
		各学年で進路行事(進路講演会・紫西プレカレッジ・企業見学・大学見学会)を計画的に行うことで、学問への興味関心を喚起し、進学への意識を高める。③⑰	A		
		医学部進学支援を行う。③④	B		
	図書館の環境を整え、資料・情報を収集し、提供する。	中学生向けの図書の充実を図り、展示・装飾・配置レイアウトを工夫する。③⑬⑱	B		
探究的な学習につなげられるような資料・情報を収集し、提供する。③⑬⑰		B			
生徒主体の図書委員会活動を行う。③⑥		B			
適切な役割分担	各系の連携を図るとともに、各系の仕事内容を吟味・整理し、緊急の事態や新しい課題に対応できる態勢をつくる。⑱⑳	B			
渉外部	PTAの活動を充実させ、諸行事への保護者の参加率を高める。	PTA総会及び支部総会などを充実したものにする。⑯	B	B	・新型コロナウイルス感染症予防に対応した、PTA活動のあり方と充実の方法
		校内外で開催される各種PTA会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集し、今後のPTA活動に活かすように努める。⑯	C		

	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにする。	各支部の活動について、適切な支援を行う。 ⑯	B		を検討する必要がある。
		生徒指導委員会や学年PTAなどを通して、保護者と職員間の情報交換を行い、共通理解の下に、生徒の生活上の変化や問題点を把握し、指導の協力体制を確立する。 ⑰	C		
	広報活動を充実させ、情報の公開に努める。	大学見学会などを通して、保護者に進路に関する情報を提供し、連携を深める。 ⑰	C		
		広報委員会の活動を通して、保護者の活動を充実させるとともに、PTA及び生徒の活動についての情報の公開に努める。 ⑯	A		
組織マネジメント推進部	「総合的な探究の時間」を通して学びに向かう力・人間性を涵養する。	課題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する。 ①	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」を中心に自己の在り方生き方について考えさせ、キャリア教育に結び付けた探究活動を展開させたい。 ・ICT教育をさらに進展させ、生徒の学力向上に資する活用方法を充実させたい。 ・「館一グローバルチャレンジ」をより活性化させ、地域・企業・大学との連携を強化させたい。
		課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現など探究の過程で、自己の在り方生き方を考えさせる。 ①②	B		
	ICT教育を促進させ、情報活用能力を育成する。 「館一グローバルチャレンジ」の事業を充実させ、新たな魅力の創出を図る。	電子黒板等ICT機器を管理してよりよい学習環境の整備を進めていく。 ①②	A		
		授業の中で積極的にICT機器を活用し多様な学習活動の一助とする。 ①	A		
		国際交流事業を継続し、国際感覚をもったトップラーナーを育成する。 ①	B		
		筑西市・地域企業・小中学校と連携を図り、地域社会に貢献できるトップラーナーを育成する。 ①	B		
大学との連携した科学実験・科学の甲子園・数学甲子園に参加し、広い視野をもったトップラーナーを育成する。 ①	B				
1学年	開かれた学校づくりを目指し、教育活動の公表に努め、保護者及び地域とのコミュニケーションの向上を図る。	メール利用による学校情報発信のための環境整備とPRを図り、館一メールの登録・更新を推進する。直感的でわかりやすいHPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHPの更新を図っていく。 ⑭⑮	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる休校明け以降、心的理由による欠席が多くみられた。次年度以降も同様の措置が行われる可能性があるため、対策を考えていきたい。 ・基本的な生活習慣の確立へ向けた取り組み、特に挨拶の励行については徹底していきたい。 ・成績については入学当初から格差がみられた。次年度はその格差を縮めつつ、上位層に対してどのような支援をしていくかを考えていきたい。
		学校案内、シラバス、様々なパンフレットの作成を通し、目指す学校像等を地域や小中学校に広く発信していく。 ⑭⑮	B		
			教員は、ALを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業について新型コロナウイルス感染状況を見ながら適宜行うよう努める。 ②③		
	基本的な生活習慣の確立を図る。	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	A		
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。 ⑥⑨	B		
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。 ⑥⑩	B		
	進路目標を決定する。	早めに登校し、始業までの時間を学習や読書をすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境をつくらせる。 ⑥⑦⑧⑩	A		
		探究活動、行事（紫西プレカレッジ・企業訪問等）、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。 ①③	A		
		AC活動などを活用することによって、高い進路目標を設定し、挑戦させる。 ①③④	B		
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けるように促し、多くの社会問題に興味を持たせ	B		

		る。	①④		
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。	①⑩⑫⑬	B	
		生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。	①⑬	A	
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。	⑬	A	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。	⑦⑱	A	
		道徳教育や学級活動を通して、他者を尊重する態度を養う。	⑥⑱	B	
2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身につける。	③④	B	B
		手帳などを活用して自己管理を行うことを指導し、自学の習慣化を図り、1日3時間以上の自学時間をつくる。	③④⑧	B	
		教員は、ALとICTを取り入れた教授・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。	①②③④	A	
	進路目標を決定する。	HRや探究学習、行事（大学見学・進路講演会等）などを通して、具体的な進路を決定する。	①③④	B	
		AC活動などを活用することによって、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、高い進路目標への挑戦を促す。	①③④	B	
		新聞を読むことを促し、社会全般に目を向けて、多くの社会問題に興味をもつようにする。	①④	B	
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行し、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。	⑤⑧⑨	B	
		服装・頭髪の指導を徹底し、制服を正しく着用する。	⑥⑧⑨	B	
		清掃をきちんと行い、学習環境を整える。	⑥⑩	A	
		始業までの時間で読書や学習をすることで、落ち着いて過ごせる環境をつくる。	⑥⑦⑧⑩	A	
	コミュニケーション能力の向上を目指す。	部活動や委員会活動、学校行事等に積極的に参加し、学校の中堅としての役割を意識し、コミュニケーション能力の向上を図る。	①⑩⑫⑬	A	
		九州修学旅行を通して、平和学習の重要性や広い視野に立って物事を見ることを学び、将来地域社会で生かせる社会力やコミュニケーション力の礎を作る。	①	A	
	いじめや不登校への早期対応をしていく。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。	⑬	A	
		各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。	⑦⑱	B	
		道徳教育を通して、他者を尊重する態度を養う。	⑥⑱	B	
3 学年	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	予習復習を徹底させ、授業に集中して取り組ませる。	③④	B	B
		手帳を使って時間管理の徹底を図り、1日平均5時間以上の学習時間を確保させる。	③④⑧	C	

・オンライン授業により学校教育のICT化と生徒と教員の情報リテラシーの向上というメリットはあったが、生徒の学力にはマイナスであった。生徒の動機付けとさらなるオンライン授業の質の向上を考える必要がある。

・生徒の学力の底上げが喫緊の課題である。修学旅行後、「3年生0学期」の意識が多くの子供の中に芽生えつつあると感じられるので、更なる支援策を講じてゆきたい。

・最後に学力が伸びた生徒は、1年生の時からこつこ

	朝学習の習慣化と自主化を実現させる。	③⑧⑩	B	つと頑張ってきた生徒が多い。入学時に高校受験の学習から大学受験に向けた学習法に切り替えることは重要だと感じた。 ・コロナ禍で昨年に続き休校となった時期があった。昨年の経験があったのでスムーズにリモート授業は行えた。しかし、常に欠席となってしまう生徒も数名出てしまったので、その対策は必要である。 ・大学受験では学習時間の確保と、学習場所の固定は大切である。低学年から朝の時間や放課後、学校での学習の習慣化を目指したい。
	夜7時まで学校を開放し、時習館・紫西スタディールームの使用を促すことで、学習時間の固定化を図る。	③	B	
	教員は、ALを取り入れた教授法・学習法を研究し、生徒が主体的に学べる授業を行うように努める。	①②③④	A	
進路目標を達成する。	HRや総合学習、進路行事などを通して、具体的な進路を決定させる。	①③④	B	
	AC活動の活用、多様な課外の実施、小論文指導等を通して、生徒一人一人に応じた進路指導を行い、高い目標への挑戦を続けさせる。	③④	A	
	個別面談を通して、生徒の進路希望及び学習状況を把握する。	③④	A	
	教員間での情報共有に努め、志望校検討会を複数回行い、変化する大学入試に対応できる体制を作る。	①②③④	B	
基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席等の指導を徹底する。	⑤⑧⑨	B	
	服装・頭髪等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。	⑨	B	
	清掃をきちんと行わせて、学習環境を整える。	⑥⑩	B	
	朝の時間に学習に取り組みせ、その習慣化と自主化を図る。	③⑥⑧⑩	B	
コミュニケーション能力とリーダーシップ能力の向上を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、最上級生としての自覚を持った行動をするように指導する。	⑪⑫⑬	B	
	HR活動等において、他者と積極的に関わり、協力することの大切さを理解させる。	⑪	A	
いじめや不登校生徒へは早期対応をする。	定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。	⑱	A	
	各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。	⑦⑱	B	

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける　　B：よいので更に努力する　　C：ふつうだが今一步の努力である　　D：やや不十分で努力を要する